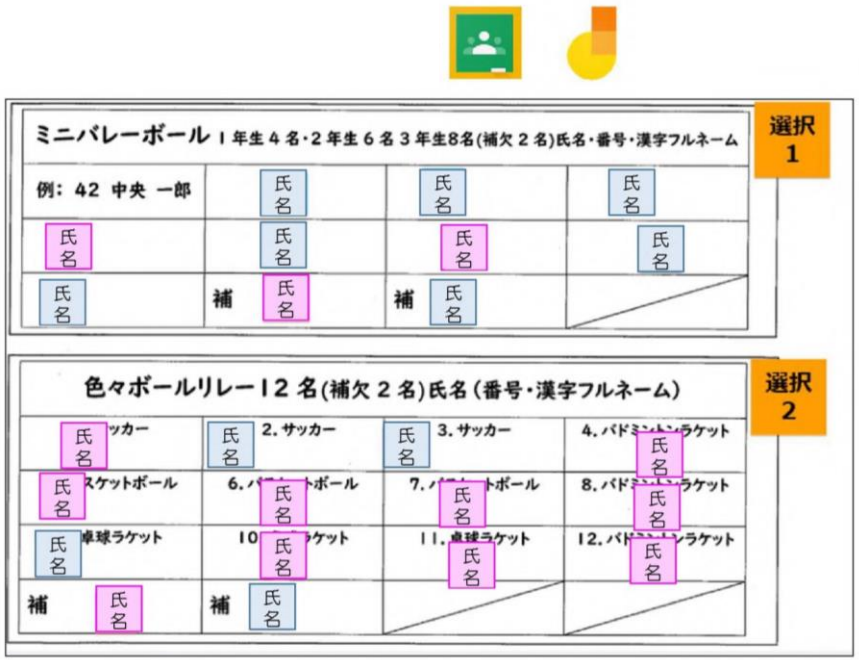
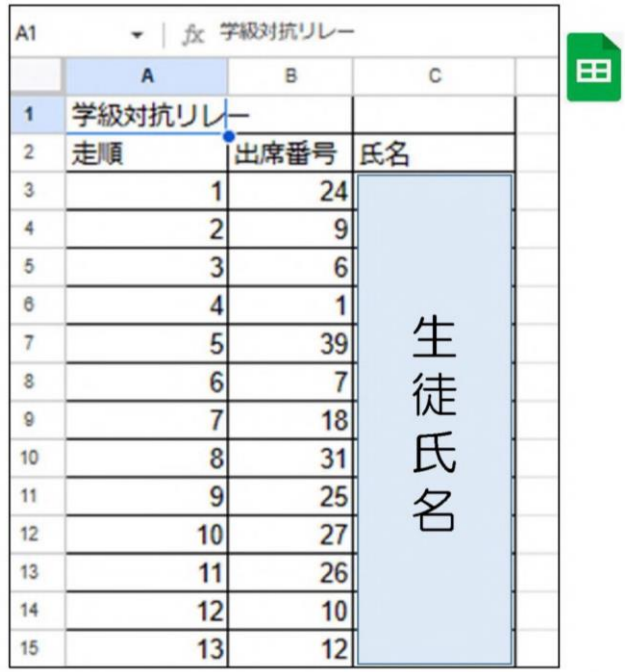
リーディングDXスクール事業 【実践事例】

札幌市立中央中学校（札幌市）

【取組内容①】「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」





【実践例④】第３学年　特別活動の時間「 Jam boardとスプレッドシートを活用した選手決め 」

修学旅行の部屋決め＆座席決めで活用したJam boardを、スポーツ大会の選手決めでも活用した。体育常任委員の資料をスキャンし、Jam boardの背景に設定することで、生徒が主体的に進められるという実践である。種目に人員が重なり、譲り合う必要がある場面も、付箋を貼り直しながら話し合う様子が見られた。全員リレーはスプレッドシートを共有し、出席番号である１～４０の枠を作るだけで、生徒が自分の好きな場所に氏名を書き込み、走順が決定していった。

希望場所の移動、調整も画面上の付箋で簡単に行うことができ、黒板を使用し、ネームプレート等を貼りながら行う従来の形に比べ、より生徒が主体的に活動に参加する様子が見られた。また、教師が準備する時間もほとんどかからない。やはり、ICTは各教科の授業に加え、特別活動の時間（学級活動）にも効果的に活用できると感じることができる実践となった。